

銅線盗難防止 アルミに

太陽光ケーブル 安価、送電機能差なく

金属盗の被害を防ぐため、太陽光発電の送電用の銅ケーブルを、被害の対象になりにくい安価なアルミケーブルに置き換える事業者が増えている。アルミケーブルを製造販売する古河電気工業(東京)によると、全国の事業者で今年アルミを導入した件数は、5月時点で4年前の20倍以上となる約230件に増えた。専門家は「被害を防ぐ根本的な対策になる」として導入を呼びかけている。

置き換え業者増

▲
ソーラーパネルの下に敷設されたアルミケーブル(銚田市で)

銚田市の太陽光発電施設では、約3万平方メートルの敷地のほとんどに青色のカバーが敷設されている。施設を管理している「つくば電気通信」(土浦市)は、2014年に運転開始した当初は銅ケーブルを敷設していた。ただ、昨年2度の窃盗被害に遭ったため、アルミ

への置き換えに踏み切った。

古河電気工業によると、アルミは銅と比べ、送電機能に大きな差がない上に価格が銅よりも安いことから近年事業者の注目が集まっているという。

国際的な指標とされるロンドン金属取引所(LME)の今年の銅価格は4年前の約1.4倍まで高騰している。一方アルミ価格は銅の約4分の1だ。実際の取引価格はさらに安い。県南地域の金属くず買い取り業者によると「アルミの買い取り価格は銅の8分の1程度」という。

つくば電気通信が管理する他の施設では、窃盗犯が侵入後にアルミケーブルだと気づき、盗まれずにすんだ事例もある。防犯アドバイザーの京師美佳氏は「アルミは窃盗犯を退散させることに効果的。ケーブルを盗まれると復旧費は高額になる。事業者は費用を惜しまず、あらかじめ対策を講じておくことが大切だ」と指摘する。